

1 はじめに

主体的に考えよう。考えることはおもしろい。

個人の尊厳からはじめる社会認識

グローバルな連帯は可能か

2 グローバリゼーションとはなにか

グローバルゼーションとはなにか

なぜ、グローバルゼーションが生じたか？

グローバルゼーションは、どこに向かうのか？

<さまざまな見方>

グローバルゼーションは資本主義の必然的な発展経路

グローバルでない社会の想定 … 自前の生産物、自前の知識・文化

今日の社会 … 中国製の T シャツ、食料自給率 40%、インターネット、グーグル、東証の「外国人」投資家、アリコ、マクドナルド、ウォールマート

今日の世界 … パナソニックのマレーシア製ラジカセ、トヨタ、ホンダ、ソニー、キャノン

→ グローバルな企業に、グローバルに活躍できる人材に、グローバルな投資を、etc

グローバルゼーションの害悪

先進国、グローバルな金融資本、グローバルな多国籍企業の支配する世界

搾取される途上国の自然と労働 … ナイキの児童労働、熱帯雨林の開発（木材・鉱物）、BP の海底油田事故

放置される最貧国 … 飢餓と伝染病、教育の貧困

先進国内の産業空洞化と失業、賃金・労働条件の劣悪化

→ グローバリゼーション反対、グローバル経済の仕組みの再構成

<グローバルゼーションのメカニズム>

中国製の T シャツ

日本メーカーのデザイナー→ 綿花生産→ 綿糸生産→ 輸送→ 綿布生産→ 染色

→ 裁断と縫製（ボタン、針、ミシン）→ プリント→ ラベル装着→ 輸送（トラック・船・鉄道・トラック）→ 倉庫→ 店舗販売員

綿花生産のための耕運機： 製鉄→ 機械→ ゴム・タイヤ生産→ 電子部品→ トラクター生産→ 輸送

綿糸・綿布生産の機械： 製鉄→ 鋳造→ 部品生産→ 機械組み立て

自動車、船舶、鉄道： 輸送車両の生産→ 電力・石油の精製と供給→ 道路、港湾、鉄道のインフラストラクチャーの建設→ 建設用資材の生産

情報通信システム： コンピューター生産→ ソフト開発→ ネットワーク構築→ コンピューター操作

インドの綿花→ 中国での綿布生産→ 日本のデザイン→ 中国での縫製→ 日本の店舗

工場生産、貿易にかかわるお金の取引 … 金融システム

➔ グローバルな協業の成果としての T シャツ

ひとりでは作れない T シャツ

お金があるだけでは（協業システムがなければ）手に入れられない T シャツ

労働する人のさまざまな生活

グローバリゼーションの二つの機能

世界的な生産のための協業のシステム

協業のシステムを担う資本主義的経済システム … 利潤動機の企業活動

C.f.: オルタナティブとしてのフェア・トレード

3 グローバリゼーションと労働コスト — 「底辺をめざす競争」 —

製造業の海外移転とグローバル企業

グローバル化した日本の企業 … 海外生産比率が 70%を超える精密機械企業、50%を超える自動車産業、世界に生産拠点を有する電機産業、リーマン・ブラザーズを買収した証券会社

生産コストを最小化するための生産拠点の配置 … 中国への大量進出、中国からタイ、ベトナムへの移転

国内生産コストの削減

生産工程の合理化・効率化 … 要員の切り詰め、自動化

賃金コストの抑制 … 正規賃金の抑制、非正規雇用の導入

企業への社会的負担の軽減 … 法人税減税

- 与えられた技術と設備のもとでは、賃金コストが決定的：海外移転へ
賃金コストだけで考えると、生産拠点は最低の賃金の地域をめざして移転する
- * そのほかに、立地条件、政治的安定性、労働者の質と量などが生産拠点を決定する条件となる

避けられない産業構造の転換

- かつての経験 … 繊維産業の衰退 → 化学、化粧品などへの業種転換
鉄鋼 → 品質の高度化と自動化、グローバル展開
- 電機・自動車 … 高まる海外生産比率、需要の成長する中国・アジア
環境適応技術の開発 → 鍵を握る研究開発
- 情報・通信 … 研究開発中心の日本企業

製造業の収縮と雇用

- 雇用の二極化 … 研究開発要員の拡大と生産要員の縮小・非正規化
サービス業の拡大と非正規化
- 「国際競争力」のための公的負担の軽減（行政改革）と規制緩和
- 失われた労働基準 … 長時間労働と非正規雇用

4 発想の枠組みを変える

グローバリゼーションは、国の国際競争力、企業の競争力を必要とするか？

- 企業が国際競争力を失うと雇用も所得も失われるか？
- 企業の競争力のための賃金抑制が内需を縮め、消費不況をもたらすという問題はどうか？
- 多くの日本企業が、国内よりも外国に大きな投資をしているが、これをどう考えるか？
- ある日本企業が外国企業に買収されたとき、日本の雇用にはどのような影響が及ぶだろうか？
- すべての国が国際競争力を強めようとした場合に、どのようなことが起きるだろうか？
- 国際競争力の弱い国はどのようになるのだろうか？
- 国の国際競争力とはなんだろうか？

国の経済や企業はなんのためにあるのだろうか？

- 経済の基本は、人間が生きること … 究極的には消費財の生産・流通

働くことの基本も、生きること … 賃金を得るために過労死するのはおかしくないだろうか？

企業は、そのような経済の組織である。そうであるとすれば、企業は、人々が生きること、そこに働く労働者が生きること为目标にすべきではないのか？

企業の国際競争力のために、あるいは企業の生き残りのために、生活ぎりぎりの非正規雇用を大量に導入することは許されるだろうか。

90 日間も休日を取らずに勤務をつづけて事故を起こした事例がある（民営清掃トラックの運転手）。会社はなぜそのような働かせ方をしたのだろうか？労働者はなぜそのような働き方を受け入れたのだろうか？

生活や雇用のための企業や経済をどのようにしたらつくることのできるだろうか？

4週間、5週間もバカンスをとるようにしたら、日本の企業はつぶれてしまうだろうか？日本経済は崩壊してしまうだろうか？

日本の会社で残業をしなくなったら、やはり同じようなことになるだろうか？

ドイツやフランスにはこうした長期のバカンスがあるが、なぜ企業や経済は破綻しないのだろうか？

ドイツやフランスでバカンスがつくられたのはどうしてだろうか？

ヨーロッパや北欧では、大学にいたるまでの教育が完全に無償になっている。国や地方がそうした財政支出をしたら、財政は破綻してしまうであろうか？

企業の経営やその利益は、株主と経営者だけに帰属するものだろうか？

グローバリゼーションの過程で、株主や経営者の所得は急上昇し、労働者の賃金や雇用は停滞ないし低下してきた。なぜ、そうなったのだろうか。それは、正しいだろうか？

5 ディーセント・ワーク –もうひとつのグローバリゼーション–

グローバルな生産と消費

グローバル市場の形成 … 相互に協力し依存しあう世界の人びと
多層的な市場 … 地域経済からグローバル経済まで

グローバル経済の問題点

マネーゲーム化した国際金融市場

主導する多国籍企業・グローバル企業

→ 省みられない環境と労働（生活）

どのようなグローバル社会をめざすか

地球環境の保全

平等なグローバル社会 … つくるべきではない“負け組”社会（最貧国）

マネー支配からの解放 … 国際金融規制と国際的金融・税制システム

人間的な労働環境・労働条件の形成

ディーセント・ワーク

世界のすべての人の、生産的な労働と完全雇用、良好な労働条件と生活保障、労働者の政治的・経済的発言権

推進主体としての、世界の労働運動と ILO

OECD の多国籍企業ガイドライン

ITUC のグローバル枠組み協定

国連の MDGs

ディーセント・ワークは、どのようにして実現することができるだろうか？

“非ディーセント・ワーク”が蔓延しているのはなぜだろうか？

われわれは、具体的に何をすることができるだろうか？

6 むすび

われわれ自身のグローバル問題

目を向けよう世界に

生きながら、働きながら、考えよう

参考文献：

田端 博邦『グローバリゼーションと労働世界の変容：労使関係の国際比較』旬報社（2007年）

田端博邦『幸せになる資本主義』朝日新聞出版（2010年）